

学生が“社会にいいこと”をするラボ (連携先：株式会社中国銀行、株式会社山陽新聞社)

ラボの課題

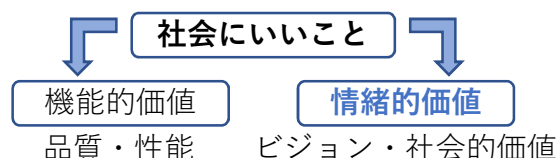
クラウドファンディング等を活用して、学生のアイデアでSDGsの実現や社会貢献を果たす。

春学期の活動報告

〈行った取り組み〉

価値提供フレームワークから、社会課題の解決に向けて、社会に提供すべき価値を「機能的価値」と「情緒的価値」に分けて検討。その成果を倉敷アリオと共催したSDGsイベントで実現。

〈実現を目指した価値〉



〈イベントの内容〉

①目標：エコロジー意識の浸透（実施日 6月11日） イベント参加者：210人

リサイクル・ガチャ

“使えるけれど要らなくなったもの物”を多くの人から集め、ガチャガチャの景品に。
誰かの要らないものを誰かが貰って喜ぶものに変えた

エコバッグ作り

要らなくなった服をエコバッグにリサイクルするワークショップを実施。**自分の手で使えなくなったものを使えるものに作り変える感動を提供した**



②目的：防災意識の醸成（実施日 7月16日） イベント参加者：250人

防災設備探検

アリオの店舗を散策し、防災設備を発見する探検プログラムを実施。**普段気づかない、人々を守るための仕組みを再認識する機会を提供した**

防災グッズシミュレーション

災害グッズを袋に詰めて、避難時に必要な物品を考えるゲームを実施。**被災時を考え、家族とサバイバルするための知識を提供した**

やくそくメモ作り

災害が発生したとき、どこに逃げ、何をするかを約束メモにまとめるワークショップを実施。**家族で話し合うことの大切さを伝えた**



今後の計画・目標

秋学期は“社会にいいこと”に向けた活動をより深化させることを目指す。

より多くの方に価値を提供するために、

- ・5W2Hのフレームワークでプロジェクトを明確化。
- ・クラウドファンディングを活用した資金調達に挑戦。

地域へのヒアリング調査、SNS活用・企業への広報活動を通じて“社会にいいこと”の実現を目指す。

担当教員：山口隆久、高橋良平、鈴川康晴

所属学生数 13名

ポスター制作：小橋陽向、加地来夢、小谷凌也、石崎拓海